2023.10.16　『時代祭 2019』を再掲

シリーズ《生き続ける文化財》：『時代祭』と都市づくり

2019 年の時代祭は，10 月 22 日が「即位の礼正殿の儀」と重なったため，26 日に催されました。午前中に桓武天皇と孝明天皇をまつる「神幸列」が平安神宮から御所に向かい，正午から時代風俗行列が平安神宮を目指して京都御苑を出発しました。牛馬 69 頭と約 2 千人の行列は全長 2 キロにおよび，沿道には 6 万 1 千人が訪れて，秋晴れの下で京を彩る豪華なパレートを楽しんでいました。京都にいると時代祭をじっくり見る機会が少ないかもしれませんので，今回はこれをレポートします。

《ご紹介》

『時代祭』は，平安遷都千百年紀念祭の余興として行われた時代行列から始まった。

平安遷都千百年紀念祭（紀念祭）は，琵琶湖疏水完成後の京都振興策として「三大問題」とよばれた三つの事業（紀念祭の挙行，第四回内国勧業博覧会の開催，京都舞鶴間鉄道の建設）の一つであり，京都の政財界が第四回内国勧業博覧会（博覧会）との同時開催に尽力し，実現したものであった。この博覧会は，1892（明治 25）年に紀念祭との同時開催が閣議決定され，翌年の帝国議会での審議を経て，上京区岡崎町での開催が公布された。博覧会は 1895（明治 28）年 4 月 1 日に予定通り開会され（会期 4 か月），紀念祭場となる平安神宮も 3 月には竣工し，紀念祭が 4 月 30 日に挙行される予定であった。しかし，天皇行幸の都合などにより延期されてしまったため，紀念祭の余興として企画されたのが時代行列であった。そして延期された紀念祭は 10 月 22 日から 3 日間挙行され，時代行列は 25 日に行われた。この行列が評判となり，以後，時代祭として桓武天皇が平安京に入った 10 月 22 日に毎年行われることになった（今年の時代風俗行列は 26 日）。

時代祭は，市内の各学区をもとにした平安講社が行列を分担し，維新勤王隊列に始まり，徳川城使上洛列，織田公上洛列，延暦武官行進列，神幸列など 20 の行列が京都御苑から平安神宮まで進行する。当初の時代行列は，平安時代から幕末までを年代順に進んだが，翌年から時代をさかのぼる今日の順番に改められたという。実際の行列を見ると何となくうなずける。

➢　時代風俗行列

平安哉
令和日和の
上洛列

1893 年に決定された博覧会の岡崎開催は，京都の都市づくりに大きな影響を与えた。開催予定地周辺では道路整備が進みだし，川端通荒神橋から吉田町に通じる新道の整備や，四条大橋東詰から大和大路までの道路拡張が行われた。また，五条大橋の付け替え工事や，七条大橋，鴨川正面橋の拡張工事が行われ，鴨川に架かる橋の整備も進められた。余談になるが，四条通の拡張に伴って，南座の北側にあった北座が千本今出川に移転したという。この他，増加する観光客への対策として 7 か年事業として行われていた，嵐山・嵯峨・太秦などの名区勝地（めいくしょうち）にいたる道路修繕が期間を短縮して実施され，新たに二条街道（二条離宮から嵐山街道）や上賀茂道（上賀茂神社前から修学院），比叡山道などの修繕も追加された。

更に，京都電気鉄道は 1894 年に七条停車場から博覧会場にいたる路線の認可を得，翌年 4 月の博覧会の開会と同時に開業している。この時の経験を基に市電敷設のための道路拡幅計画が見直され，道路拡築と市電敷設が計画的に整備されていくことになる。

また，紀念祭の開催は京都市政にも大きな影響を与えた。まず京都の歴史の編纂が京都市で発議され，1895 年に『平安通志』として刊行された。これは日本で最初の自治体史である。また 1893 年ごろから京都市の公会堂建設の動きがはじまり，翌年，議事堂と改称されて現在の京都市役所の場所で建設が進み，1895 年に竣工した。そして市政特例が撤廃された 1898 年には，市役所が府庁から独立し，この議事堂内に移転したのである。

今日では，オリンピックや万博などを契機に大規模な公共投資が行われるが，岡崎で開催された平安遷都千百年紀念祭と第四回内国勧業博覧会はその先駆けであり，時代祭は明治時代の市民による祝賀の様子を今に伝えている。

続く

➢　出発準備（京都御苑）

時代列
ひときわ輝け
我が稚児よ